

2022年11月24日

京都教区 共同宣教司牧ブロック
担当司祭および信徒の皆さんへ

京都司教 パウロ大塚喜直

2023年 司教年頭書簡
コロナ時代を生きる信仰 III
わたしのシノダリティを創ろう

2023年 司教年頭書簡の趣意書

第16回通常シノドス『ともに歩む教会のため=交わり、参加、そして宣教』は、2021年10月の開会式から始まり、総会は2023年と2024年の10月に2回ローマで開催されます。

日本の教会のシノドス回答を作成するために、京都教区内の司祭・小教区・修道会・委員会・諸活動の皆さまには、10の質問内容を参考に、グループで分かち合い、考えてくださるようお願いいたしました（Kyo.Prot.N.70/2021、2021年12月4日付け）。

2022年5月7日までにいただいた回答をまとめ、6月4日に司教協議会事務局に「京都教区の回答のまとめ」を提出し、日本司教協議会としての回答を2022年8月に教皇庁シノドス事務局に提出しました。コロナ禍にもかかわらず、数多くの回答が寄せられ、あらため皆様のご理解とご協力に感謝申し上げます。

京都教区は、寄せられた回答をもとに、来年もシノドスのテーマを深めるために、寄せられた回答を参考にして、各共同体での分かち合いを重ね、組織や計画に流されずに、互いに敬意と感謝をもって励まし合いながら、福音宣教を行いたいと思います。

今回のシノドスの目的は、教会の本質であるシノダリティを現代の教会が再発見することにあります。教皇フランシスコは、今回のシノドスが、そのプロセス全体を通して、信徒の誰もが教会を「自分たちの家」のように感じ、誰もが参加できる場所となり、兄弟姉妹たちの希望や困難に耳を傾け、寄り添う教会へと生まれ変わるチャンスになることを願われています。

2023年司教年頭書簡は、シノダリティの「交わり」「参加」「宣教」の三つの次元に合わせて、わたしたちの日々の生活のなかでの「人との交わり」「社会参加」「信仰のあかし」について、ふり返ります。コロナ時代を生きるわたしたちが、シノダリティを自らの生き方の基本に据え、わたしのシノダリティを創りましょう。

コロナの感染状況の予測がつきませんので、司教訪問の日程を組みませんが、可能な時には、主日のミサを司式するために各小教区を訪問したいと思います。

以上。